

■ 廃棄物削減にも寄与するバイオマス発電の推進

バイオマス発電については、経済性や燃料の安定調達面等を勘案し、石炭火力発電所におけるバイオマス混焼に取り組んでいます。また、グループ会社のみやざきバイオマスリサイクル(株)によるバイオマス(鶏糞)発電の実施や、バイオマス発電・廃棄物発電事業者からの電力購入を通じて普及促進に努めています。

苓北発電所(熊本県苓北町)では、国内の未利用森林資源(林地残材等)を利用した木質バイオマス混焼発電実証事業^{※1}を2010～2014年度にかけて実施し、2015年度以降も運用を継続しています。この取り組みにより、2015年度は約6,200トン^{※2}のCO₂排出量を抑制しました。

また、電源開発(株)他と共同で、熊本市が公募した「下水汚泥固形燃料化事業」に参画しています。2013年4月から燃料製造を開始し、製造した燃料化物は当社松浦発電所と電源開発(株)松浦火力発電所(ともに長崎県松浦市)で、石炭と混焼しています。この事業により、2015年度は約1,200トン^{※3}のCO₂排出量を抑制しました。

バイオマス発電・廃棄物発電設備とCO₂排出抑制量(2015年度) 単位: kW

発電所	みやざき バイオマス リサイクル ^{※5} (宮崎県)	福岡クリーン エナジー ^{※5} (福岡県)	苓北 ^{※6} (140万kW) (熊本県)	松浦 ^{※6} (70万kW) (長崎県)
燃料	バイオマス (鶏糞)	一般廃棄物	バイオマス (木質チップ)	バイオマス (下水汚泥)
出力	11,350	29,200	(重量比で最大1%混焼)	(700トン/年程度)
2015年度 CO ₂ 排出 抑制効果	33,600トン ^{※4}	43,200トン ^{※4}	6,200トン	1,200トン

(2016年5月末現在)

■ 発電所の跡地等を活用した太陽光発電の推進

当社発電所跡地等を活用したグループ会社によるメガソーラー開発に取り組んでいます。2015年8月には、九電みらいエナジー(株)による出力1,000kWの苅田メガソーラー発電所(福岡県京都郡苅田町)が運転を開始しました。この発電所は、当社送電線下の用地等を活用しており、運転による年間のCO₂排出抑制量は約500トン^{※1}に相当します。

WEB 太陽光発電については、太陽光発電の概要とあわせて、メガソーラー大牟田発電所の発電状況をリアルタイムで公開。詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > [リアルタイムデータ\(メガソーラー大牟田発電所\)](#)

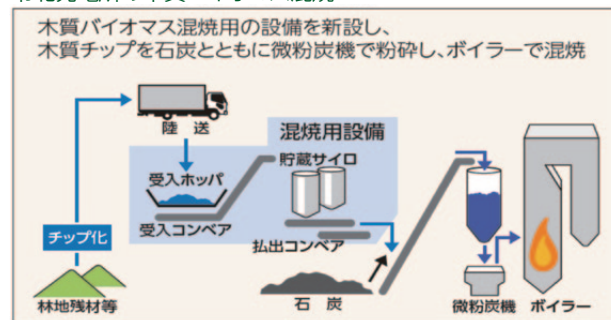
太陽光発電設備とCO₂排出抑制量(2015年)

単位: kW

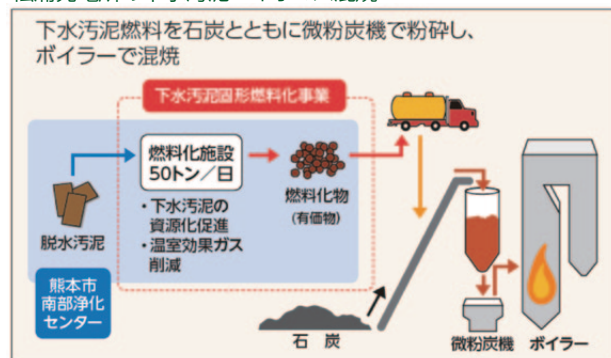
発電所	既 設 (約44,000)					計画 (約46,500)
	メガソーラー 大牟田 (福岡県)	大村 メガソーラー ^{※2} (長崎県)	佐世保 メガソーラー ^{※2} (長崎県)	事業所 等への 設置	その他 メガ ソーラー ^{※2}	その他 メガ ソーラー ^{※2}
出力	3,000	15,490	10,000	約2,700	約13,200	約46,500 ^{※3}
2015年度 CO ₂ 排出抑制効果 ^{※1}	1,800トン	11,200トン	6,600トン	-	8,600トン	(2016年5月末現在)

※1: 2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。
※2: グループ会社(九電みらいエナジー(株)、宗像アスティ太陽光発電(株))による開発。
※3: 共同開発(レナトス相馬ソーラーパーク: 43,500kW)を含む。

苓北発電所の木質バイオマス混焼



松浦発電所の下水汚泥バイオマス混焼



※1: 国の補助事業「平成21年度林地残材バイオマス石炭混焼発電実証事業」。
※2: 木質バイオマス混焼量に、石炭1kgあたりのCO₂排出量と、石炭と木質バイオマスのカロリー比を乗じて試算。
※3: 下水汚泥と石炭のカロリー比から試算した石炭削減量に、石炭1kgあたりのCO₂排出量を乗じて試算。
※4: 2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。
※5: グループ会社による開発。
※6: 既設石炭火力発電所における混焼。



苅田メガソーラー発電所(グループ会社の九電みらいエナジー(株))